



土やハーブ、植物が持つエネルギーで「自己治癒力」を高める

自然を大事にする無農薬・無化学肥料の自然農をスタート!

現在、ホメオパシーは人や動物だけでなく農業や環境にも活用されています。「カレッジ・オブ・ホリスティック・ホメオパシーCHhomシーエイチホーム」の由井寅子学長がスタートさせたこの活動。昨年には、由井学長が代表を務める農業生産法人日本豊受自然農株式会社が立ち上がりました。

6年前、北海道の洞爺に農薬や化学肥料などが一切入っていない土地を購入し、本格的に取り組みを始動。畑には第一号として、欧州の自然農法で育ったカレンデュラの種を蒔きました。周囲からは、「素人に農業ができるわけがない」、「農薬や化学肥料を使わずに安定した収穫は望めないだろう」などのさまざまな忠告を受けたといいます。

そして迎えた一度目の収穫期は、十分な収穫には恵まれませんでした。「農業の難しさを思いしらされた年」となったそうです。しかし、諦めずに栽培方法を見直し、工夫を重ねさらに作業に励みました。その努力が実を結び、2年目の7月には農場一面、黄金色に輝くカレンデュラの美しい姿を見ることができたのです。

その後は北海道だけでなく、静岡でも自然農園をスタート。日々生い茂る雑草と戦い、発酵植物活性液アクティブ・プラントの力を借りて熟成させた落ち葉堆肥により土壌を改良。農薬や化学肥料を使用しない、自然農の生育に適した農地へと変化させていきました。今ではハーブや日本産マザーチンクチャーの原材料、野菜などさまざまな栽培が行われ、製品に活かされています。札幌、東京、名古屋、京都、大阪、福岡で展開されている自然喫茶では、自然農園で採れたハーブが入ったクッキーやジンジャーティーなどのドリンクを提供。安全だけでなく食物自体が持つ本来の自然エネルギーを味わえると、食通からも評価が高いそうです。また、リップやヘアジェルなど化粧品やヘアケア、オーラルケア製品にも、自然の恵みが詰まったハーブが使用されています。

このような自然農法活動が行われるきっかけとなったのは、由井学長の体験があります。由井学長のもとにホメオパシーの相談に来られる患者さんの中で、食が悪い方は病状がなかなか回復に向かわなかったそうです。患者さんの中で農業の経験のある方には、自ら農薬を使わないで作物を栽培して食べることを実践してもらいました。すると、レメディーをとった後の反応もよくなり、どんどん回復していきました。そこで、「いかに農薬が体に悪いか」を知り、農業の重要性に改めて気づいたのです。

私たちの身体は、自らが摂取した食物でできています。「自然農法」は化学物質が溢れかえる現代に生きる私たちに、本物の「安心・安全」を届けてくれるだけでなく、自己治癒力に働きかける大地のパワーを教えてくれる存在となりそうです。

5月27日には函南自然農園、7月28・29日には洞爺自然農園にて「とらこ先生といく豊受自然農園ツアー」が開催されるそうです。



上：北海道洞爺の豊受自然農園。洞爺湖を見渡すことができるこの農園では、毎年7月のハーブの花摘みツアーが開催されている
中：豊受自然農の由井寅子代表。日本のホメオパシーの第一人者。静岡県函南町の農園では、無農薬・無化学肥料で育った季節野菜が収穫され、直営店で購入可能。今後は通信販売でも購入できる予定
下：豊受自然農園の野菜。生き生きとした野菜はエネルギーが違う

文◎本誌編集部
取材協力◎農業生産法人日本豊受自然農
TEL055-945-0210
<http://toyoke.com>
取材協力◎カレッジ・オブ・ホリスティック・ホメオパシー
CHhomシーエイチホーム
TEL03-5779-8005
<http://www.homeopathy.ac>